

平成 29 年度南ユタ大学短期プログラムを経て

北海道教育大学函館校

国際協働グループ 2 年

6089 大澤 竜生

まず初めに、この南ユタ大学短期プログラムに参加して一番思ったことは、このプログラムに参加できて本当に良かったということです。僕は元々このプログラムではなくフランスの海外スタディーツアーに参加しようと思っていましたが、落選してしまったため、友達が行くと言っていたこのプログラムに参加することにしました。これまで日本国内から出たことがなかったので海外での生活を味わってみたいかつたというのと、現地で英語を学んでみたいかつた上に、先輩からもこのプログラムを勧められていたので、かなり楽しみにして参加しました。

南ユタ大学で受講した授業では、もちろんすべて英語で授業をします。授業内容としては、午前は基本的にプログラム参加者で英語を使ったゲーム作りのような英語を使った考え方を学びました。午後は様々なアクティビティーがあり、英語のビデオブログを作ったり、実際に南ユタ大学の学生に交じって講義を受けたり（写真 1）、日本の文化を現地の人にプレゼンしたり（写真 2）とたくさんの活動を行いました。午後の活動の中で印象的だったのはスカベンジャーハントです。このプログラム内で意味するスカベンジャーハントというのは、大学内にいる人に話しかけていくつか質問をするというものでした。初めは英語で見知らぬ外国人に話しかけることにとても抵抗がありましたが、回数を重ねるごとに話しかけることに抵抗がなくなり、自然に話しかけることができるようになりました。



写真 1



写真 2

そのほかに、授業内でアメリカの有名な自然公園のうちの一つであるブライスカニオン国立公園にも行きました。そこでは、日本では見ることのできない様々な動植物や自然の創出物を目にすることができました（写真 3）

そしてこのプログラムのいいところはホームステイであるということです。なぜホームステイが良かったかというと、家でも英語を話すことができ、日本の家庭とは違うアメリカの家での過ごし方を知ることができ、家庭料理も食べることができるからです。そしてホームステイファミリーとの会話を通じてより深くアメリカについて知ることができるからです。僕のホームステイファミリーは父、母、息子（4歳）という家族構成でした。ファザーはボードゲームやカードゲーム、ビデオゲームといったゲームが好きで、日本ではやったことのない様々なゲームを知ることができました。最初こそは、ホームステイファミリーと会話することにもとても緊張していましたが、プログラム終了時には会話することがとても楽しくなっていました。そういったところがホームステイの強みであると思います。

南ユタでは、基本的にはホストファミリーが車で大学の送り迎え、またほかのお店や観光地などに連れて行ってくれました。ホストファミリーによっては、休日に日本食レストランや上述したブライスカニオン以外の自然公園などに連れて行ってくださることもあります。僕は世界自然遺産であるグランドキャニオンに車で片道二時間半かけて連れて行ってもらいました（写真4）。アメリカの中では車で片道二時間半の距離は近いほうであるそうです。アメリカの中では田舎だと言われていますが、大学の周りにはスーパーや洋服屋さんなど多数ありました。また学内にも日本の大学の購買とは違った、大学名が入った洋服や他にもさまざまな種類のものがそろっていましたし、食堂もピザ屋さんやバーガーショップなど色々なお店が入っていました。

今回の参加者に伝えたいこととしては、アメリカの気温は高いですが、大学構内は冷房が効きすぎているので、パーカーのような上着があると良いと思います。



写真3



写真4